

チュウガタコガネグモは山地性のクモなのか？

関根 幹夫

Does the orb web spider *Argiope boesenbergi* live in mountainous regions by choice?

Mikio Sekine

It has been pointed out that the orb web spider *Argiope boesenbergi* lives in mountainous regions by choice, in comparison with *Argiope amoena*. In order to find out whether or not it is true, the distribution of *A. boesenbergi* and *A. amoena* was surveyed in Nara Prefecture in 2013–2014, respectively. I also checked out the observations on the spiders in other several prefectures. Figure 1 is a diagram showing the vertical distribution of *A. boesenbergi* and *A. amoena*. No significant differences existed between *A. boesenbergi* and *A. amoena* in distribution (Welch's *t* test; $P = 0.065$). It suggests that the hypothesis is not quite right.

はじめに

チュウガタコガネグモは、山地の草間に網を張るクモと言われている（新海 2006）。また、チュウガタコガネグモが高標高域に、コガネグモが低標高域にすみわけて生息するという仮説の検証が、神奈川県丹沢大山総合調査で行われたが、両者の分布は重なっており立証されなかったと報告されている（池田ら 2007）。

今回、チュウガタコガネグモはコガネグモに比べて山地性のクモであるという言説について、検討を試みたのでここに報告する。

方 法

チュウガタコガネグモとコガネグモの生息調査をそれぞれ目視により実施した。調査は奈良県下で両種の成体出現期である 2013 年の 6 月から 8 月と 2014 年の 6 月から 7 月に行った。両種の雌は腹部上面の斑紋と体が大きいことにより、同属の他種から見分けることができる（谷川 2009）。また本稿では、長野県（宮下 直 私信）、千葉県（馬場友希 私信）、福岡県と山口県（山崎茂幸 私信）、愛媛県（松田久司 私信）と三重県（塩崎哲哉 私信）での両種の知見を、奈良県下で得られた生息調査結果に併せて使用させて頂いた。

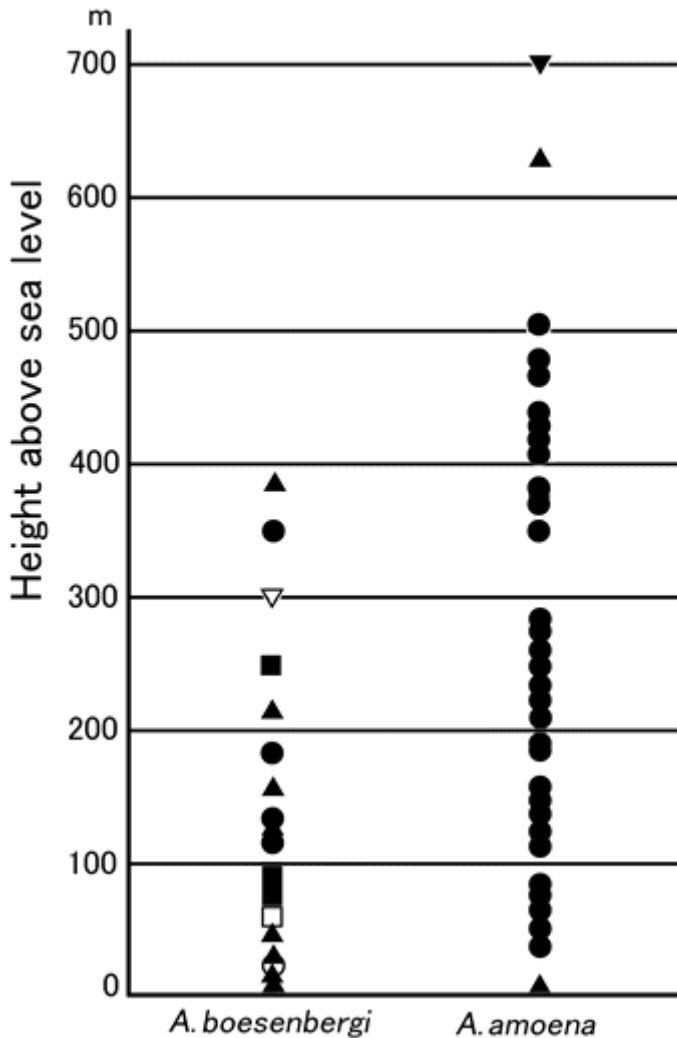


図 1. チュウガタコガネグモとコガネグモの垂直分布. ●: 奈良県 2013 年~2014 年, ▼: 長野県 2014 年 (宮下 直 私信), ○: 千葉県 2004 年 (馬場友希 私信), □: 福岡県 2006 年 (山崎茂幸 私信), ▽: 山口県 2011 年 (山崎茂幸 私信), ■: 愛媛県 2007 年, 2008 年, 2011 年 (松田久司 私信), ▲: 三重県 1995 年~2007 年 (塩崎哲哉 私信).

Fig. 1. The vertical distribution of *A. boesenbergi* and *A. amoena*. ●: Nara Pref. 2013–2014, ▼: Nagano Pref. 2014 (T. Miyashita, pers. comm.), ○: Chiba Pref. 2004 (Y. Baba, pers. comm.), □: Fukuoka Pref. 2006 (S. Yamasaki, pers. comm.), ▽: Yamaguchi Pref. 2011 (S. Yamasaki, pers. comm.), ■: Ehime Pref. 2007, 2008, 2011 (H. Matsuda, pers. comm.), ▲: Mie Pref. 1995–2007 (T. Shiozaki, pers. comm.).

結 果

チュウガタコガネグモとコガネグモの生息地と標高との関係を図 1 に示す。チュウガタコガネグモの垂直分布の平均標高は $113.9 \text{ m} \pm 18.1$ (平均値±標準誤差), 分布範囲は標高 2 m~390 m であった ($n=34$)。一方, コガネグモの垂直分布の平均標高は $158.3 \text{ m} \pm 15.2$, 分布範囲は標高 2 m~700 m であった ($n=94$)。両種の標高の違いについて統計検定では有意差が認められなかった (Welch's t test; $P=0.065$)。

考 察

チュウガタコガネグモの垂直分布範囲とコガネグモの垂直分布範囲の比較から, チュウガタコガネグモよりもコガネグモの方が, 低地から高地まで幅広く分布する傾向がみられたが (図 1), 統計検定では両種の標高の違いに有意差は認められなかった。このことから, チュウガタコガネグモはコガネグモに比べて山地性のクモであるという言説は必ずしも正しくはないということが示唆された。

チュウガタコガネグモが山地性のクモという印象を与えるのは, 何故だろう? ここでは, 可能性のうちの一つを述べるにとどまるが, チュウガタコガネグモが関東地方で谷戸・谷津田などと呼ばれる場所, すなわち丘陵地が浸食されて形成された谷状の地形の林縁部で見られることによるのではないだろうか。チュウガタコガネグモの生息環境については, 更なる研究が必要であろう。

引用文献

- 池田博明・谷川明男・初芝伸吾・安藤昭久・貞元己良・新海栄一, 2007. IIクモ類. pp. 269–274. In: 丹沢大山総合調査団 (編) 丹沢大山総合調査学術報告書. (財) 平岡環境科学研究所 (神奈川), 794 pp.
- 新海栄一, 2006. 日本のクモ. 文一総合出版 (東京), 335 pp.
- 谷川明男, 2009. コガネグモ. P. 425. In: 小野展嗣 (編) 日本産クモ類. 東海大学出版会 (神奈川), xvi+738 pp.